

■ はじめに

第2次地域ビジョンの策定にあたって

雲が流れる丘の坂を下ると、眼下に里山の景色と古（いにしえ）を偲ぶ街並みが広がります。古くからこの地を守り発展させてきた人と、閑静な住宅に憧れを持って移住した人が、一緒になって住み続けられるまちづくりを目指しています。

現在の地域ビジョンを策定してから10年が経過することから、社会情勢の変化を勘案した見直しを行い、第2次地域ビジョンとして発表致します。中でも私たちの暮らしに大きな影響があるのが少子高齢化です。経済が停滞し、国の財政をはじめ行政から住民への支援も一層難しい時を迎えます。行政に頼り過ぎず、住民による自主自立の運営を進めて行くことが地域組織に求められてくると思います。

「生きがいを感じるまちづくり」のために、自分でできる・参加する・役割を果たすなどの活動に力を注いできました。これからは今まで以上に在宅避難や在宅介護に努力する必要があると感じています。

「住み続けられる」ためには、地元での働く場づくりが最も重要だと考えています。民間独自の起業は難しくても行政福祉・ボランティア・企業や福祉施設・スポーツ施設など他地域を含めての連携により、可能な事業推進に取り組んでいきたいと思ひます。

「地域活動の担い手の若返り」が大事な時代になってきました。団塊の世代が高齢になり次の担い手不足が深刻です。法人としての組織運営による住民の安心感を維持するために、定義と実状の差異をその都度検討改訂して、より解かり易い規程のもとで、人材好循環を進めてまいります。

今回の地域ビジョンが住民の皆さんにとっての希望となり、また活動に携わる人の指針となることを願っています。

一般社団法人 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会 代表理事 時枝 民生

策定にあたっての御礼

第1次地域ビジョン策定から10年の時が経ち、世界も日本も大きく変化する中であって、この青蓮寺・百合が丘地域の今後の方向性を描き直すことが必要となりました。

10年後の青蓮寺・百合が丘地域を「これからもずっと住み続けたい」「住んでよかった」と思える地域にしていけるよう、地域の方々一人ひとりが、地域の将来のまちづくりについて話し合い、将来の基本構想（目標）とその実践を明確にする地域ビジョンを掲げることを中心に検討を重ねてまいりました。

その結果、第2次地域ビジョンの基本目標を、第1次地域ビジョンの基本目標を受け継ぎ「豊かな、自然と触れ合う、安全安心で、生きがいを感じるまちづくり」と設定しました。そして、5つの基本方針と実施目標について、中長期的な地域づくりの方向性を示しました。この地域ビジョンの達成目標年度は令和12年度とし、途中5年後に見直しをすることにしています。

地域ビジョンは地域の方々一人ひとりが、地域の課題や特性を共有し、共通の目標をもって連携・協力していくために、地域の現状を見つめ直し、自分たちがどのようにしていきたいのか、そのために、自分たちで何ができるのかを考え、地域の目指すべき姿とその実現に向けた取り組みを示したものです。

最後になりましたが、策定にあたり、関わっていただきました方々をはじめ、貴重なご意見をいただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

この冊子が各ご家庭に配付され、地域全体で目標達成に向けて具体的事業が実現されることを通して、生きがいを感じるまちづくりに繋がっていくことを祈念いたしております。

ビジョン委員会 委員長 川岡 均